

い未来を目指して はばたけ都城！6次産業化推進大会



農産物の生産から加工、流通、販売までを一体的に行う農林水産業の6次産業化。市では、農林水産業のみにとどまらず、他産業への波及や、雇用の拡大につながるこの取り組みを全面的にバックアップするため、本年度、六次産業化推進事務局を設置しました。

今回は、8月9日(金)に総合文化ホールで開催された「はばたけ都城！6次産業化推進大会」での講演やパネルディスカッションの様様を紹介します。

◎問い合わせ 六次産業化推進事務局 ☎ 23-2193

基調講演

「地域資源を活かした経済活性化のススメ」6次産業化を動力源として」

講師

皆川芳嗣^{よつぐ} 農林水産事務次官

◎講師紹介

昭和53年農林水産省入省。関東農政局長、林野庁長官などを歴任し、平成24年9月に農林水産事務次官に就任。
福島県いわき市出身。

攻めの農林水産業

日本の農林水産業は、担い手の高齢化や耕作放棄地の増加など、さまざまな課題に直面しています。また、国内経済もバブル経済崩壊以降、20年余り続くデフレの影響で自信をなくし、将来に明るい材料を乏しく感じている人が少なくありません。

この状況を打破する一つの手段が、6次産業化の取り組みです。政府は、今年をチャレンジの年と捉え、安倍内閣が発足して以降、「攻めの農林水産業」に取り組みうと、次の3つの戦略を立てて、6次産業化の推進など生産現場の強化を図っています。



明る



○新たな需要の掘り起こし

少子高齢化などの影響から、農林水産物の需要が増えることに疑問を持つ人がいます。しかし、東アジアの国々を中心に市場は拡大しています。また、日本を訪れる旅行者は年間1,000万人を超えています。この点に着目して、工夫を凝らすことで、日本の農林水産物を世界の人たちに売り込むことが可能になります。

○生産から販売まで

農作物などを作る人、売る人といったこれまでの役割の枠を超えた体制づくりが必要です。例えば、農家レストランのように、一人で全ての役割を担う方法もありますし、お互いが連携する方法もあります。これからは、農産物の生産だけを考えるのではなく、加工、流通、販売までを考える柔軟な発想が必要です。

○生産基盤の強化

どんなに発想が柔軟であつても、生産基盤が弱くては話になりません。また、連携の可能性を高めるためにも、足元をしつかり固める必要があります。

多様化する6次産業化

6次産業化は食べ物だけではなくさまざまな展開が可能です。例えば、林業においては、加工業者と連携して、新たな製材品や住宅資材を開発することなども6次産業化の一つです。その関わり方次第で、さまざまな取り組みが6次産業化に結び付きます。

このような意味で、6次産業化の概念は、大変、広がりがあります。話を戻して「食」に関していうと、健康や医療、介護、福祉などと結び付くことで、その広がり は多種多様です。

世界規模の視野を

今、経済成長の著しい中国をはじめ、東アジアの国々を中心に、日本の食や食材へ熱い視線が向けられています。これまでの農林水産物の輸出は、海外のスーパーマーケットでイベントを行う程度の散発的なものでした。このような取り組みでは、広がりや限定的であるため、連続的な販売体制の確立が必要になります。

そのためには、さまざまな食材や商品を集めた「オール九州」「オールジャパン」レベルの取り組みが求められます。

都城の農林畜産業への期待

国内有数の農林畜産地帯である都城市は、風光明媚であり人情も温かい地域です。このような土地柄である都城市は、6次産業化の取り組みがうまくいくための、さまざまな「可能性」を秘めていると思います。今後、柔軟な発想から、6次産業化に向けた新たなチャレンジが起こってくることを期待しています。

このことから、私は『都城市が、全国の先進地として、6次産業化推進モデル地区の第1号となつてしかるべき地域である』と思っています。そのためには、いろいろな人と連携を図るといいう意味で、勇気を持って一歩あるいは半歩踏み出すことが今、求められています。



皆川芳嗣 農林水産事務次官



パネルディスカッション

◎コーディネーター（座長）

福田 晋

九州大学大学院農学研究院教授

◎パネリスト（討論の参加者）

皆川芳嗣

河野俊嗣

新森雄吾

高峰由美

池田宜永

農林水産事務次官

宮崎県知事

都城農業協同組合
代表理事組合長

宮崎県農業振興公社

みやぎ6次産業化サポーター

都城市長

なぜ今、「6次産業化」なのか

◎福田教授

県や市の現状や課題などを踏まえ、6次産業化の必要性や意義について説明してください。

◎河野知事

本県は農業産出額3,000億円に対し、食料品製造出荷額は2,600億円となっています。このことから、食品加工産業には伸びしろがあり、6次産業化に取り組み好機だと考えています。



◎池田市長

本市の基幹産業である農林畜産業に従事する人の所得が増え、地域経済の活性化にも寄与する6次産業化は、有効な手段であると考えています。知事の発言にもありましたが、本県の農業産出額と食料品製造出荷額の比較からも、取り組む余地があると思います。



都城市における6次産業化に向けた推進体制

◎福田教授

6次産業化に取り組み活発な雰囲気がある一方で、取り組み方が分からない人もいるのではないかと思います。都城市が、今後、6次産業化をどのように推進していくのか、新しく専門の部署（六次産業化推進事務局）を設置した狙いを含めて説明してください。

◎池田市長

先駆的に6次産業化に取り組み人たちはもちろん、何らかの理由で、取り組めない人たちがどのように手助けするかが課題であると

考えています。

6次産業化推進事務局を立ち上げたのは、そのような人たちを手助けし、「全力を挙げて6次産業化を進めるんだ」という市としての強い思いからです。今後、成功事例を出すために、しっかりと現状を分析し、行政としてどのような支援をすべきかを見極めていきたいと思っています。

6次産業化推進の支援策

◎福田教授

農業者をサポートする立場から、改善すべき点や行政が行うべき支援策などについて説明してください。

◎新森組合長

6次産業化を成功させる上で重要なことは、販売戦略の構築です。販売戦略について、いろいろな立場から助言をしてもらうと共に、消費者ニーズに合うものを作るための研究開発にかかる支援もお願いしたいと思っています。

◎高峰サポーター

人材育成が非常に大切だと思います。6次産業化はビジネスですので、外部の専門家を活用しながら、「農の起業家」としての農業者を養成できるような体制をつくってほしいと思います。

◎池田市長

「農の起業家」を育てるシステムは、今ある枠組みを活かして、企業や商工業者の団体などに、農業者に入ってもらう方法もあります。また、販路開拓は、市町村レベルだけでの対応に限界があるので、特に県との連携を強化して取り組むことが必要だと考えています。

キーワードは「連携」

◎福田教授

6次産業化にこれから取り組む人に対して、注意点や提言、提案などをお願いします。

◎皆川事務次官

6次産業化に至る道筋は、一つだけではありません。研修会など、6次産業化について真剣に考えている人たちが集まる場に出掛けて話し合えば、一人ではできなかった新しいことができるかも知れません。今までにない価値を創造しようとするときには、違う経験値を持つている人と話すことが重要です。キーワードは「連携」です。



関係者との距離感が近くなります。消費者が欲しくなる商品づくりには、しっかりとした生産基盤が必要です。また、「女性の関わり」も大切です。女性が中心

○高峰サポーター

6次産業化により、農業者と消費者との距離感が近くなります。消費者が欲しくなる商品づくりには、しっかりとした生産基盤が必要です。また、「女性の関わり」も大切です。女性が中心



○河野知事

農業者が、IT関連企業やコンビニチェーンなどとタッグを組む6次産業化もこれから有望だと考えています。県としてもいろいろな「連携の場づくり」に取り組んで、6次産業化の推進に力を注いでいきたいと考えています。

○新森組合長

われわれ農業者は、6次産業化の取り組みが楽しくもあり、厳しくもあるという自覚を持たなければなりません。行政の支援があっても、最終的には、6次産業化に取り組む当事者であるわれわれが、「自らの責任」を持って製造や販売に取り組んでこそ、明るい未来が開けてくると思います。

六次産業化推進宣言 (原文)

私たちは、一人ひとりが都城のこれからの更なる発展に対する責任を自覚し、豊かな自然とそれに裏打ちされた豊富な農林畜産資源を守り育て、「六次産業化」という大きな取り組みによって地域経済全体の活性化を図り、“市民一人ひとりに笑顔があふれるまち”を実現するために、次の取り組みを推進します。



1. 私たち農林畜産業者は、地域資源である農林畜産物の生産性・品質の向上に努め、その上で、付加価値のある加工品等の製造、そして流通・販売にも積極的に取り組み、所得の更なる向上を目指します。
2. 私たち商工業者は、農林畜産業者の方々とともに、地域資源である農林畜産物の魅力を最大限に活かした商品づくりを行い、地域と連携した生産体制づくりに取り組みます。
3. 私たちは、農林畜産業者や商工業者の方々ははじめとする地域経済全体の活性化を図るため、国や県などの関係機関とこれまで以上に連携し、この「六次産業化」という大きな取り組みを地域全体で推進していきます。

都城市は、今ここに、『六次産業化推進のまち』として、六次産業化の取り組みを推進していくことを宣言します。

平成 25 年 8 月 9 日 宮崎県都城市

となつて、新商品が生み出された事例もあります。女性の活躍を6次産業化の一つの視点にすると良いのではないのでしょうか。



○池田市長

市としては、農業者が何を求めているのか、まずは現状把握と分析をしっかりとしていきたいと考えています。それを踏まえて、民間にお願いするところはお願いし、

市として対応すべきものは、国や県と連携してニーズに合った施策を考えていきたいと思っています。ただ、行政ができるのは、「環境づくり」までです。6次産業化に取り組むも取り組みもないも本人次第です。私たち行政は、前向きに取り組んでいく人たちをしっかりと支えていきたいと思っています。

○パネルディスカッションのまとめ

地域資源を活かし、付加価値を付けるためには、農業の「生産基盤」が重要です。そこから経営多角化という次のステップに進む場

合には、さまざまな形があると思いますが、「連携」という言葉が一つのキーワードになってくるのは間違いありません。今回のパネルディスカッションは、都城市の6次産業化推進のキックオフミーティングです。市においては、6次産業化に取り組む意思のある農業者を、強く後押しする取り組みをお願いします。

